練習問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

まだ小学校に通っていたころ、こん虫を集めることが友だち仲間ではやった。自分も母にねだって、かや[注1]の破れたので捕虫あみを作ってもらって、土用の日盛りにも恐れず、Ⓐ①これをかたにかけて、毎日のように虫とりに出かけた。蝶蛾や甲虫類の一番たくさんすんでいる城山の中をあちこちとながい日を暮らした。

二の丸、三の丸の草原には、珍しいチョウやバッタがⓐおびただしい。少ししげみに入ると樹木の幹にさまざまな甲虫が見つかる。玉虫、こがね虫、米つき虫の種類がかずかずいた。Ⓑⓑ胸をおどらせながらこんな虫をねらって歩いた。

いつか、城山のずっとすそのおほりに臨[注2]んだ暗いしげみにはいったら、一株の大きな②コクサの木があって、桃色がかった花がこずえを一面におおっていた。散った花は、風にふかれて、みぎわ[注3]にくちしずん[注4]だどろ船に美しく散らばっていた。この木の幹は、ところどころ虫の食い入ったあながあって、あなの口には、細かい木くずが虫のふんとともにこぼれかかって、一種の臭気[注5]が鼻をおそった。この木の幹の高いところに大きな、みごとなかぶとむしがいかめしい角をたてて止まっているのを見つけたときは、うれしかった。自分の標本箱には、まだかぶとむしのよいのが一つもなかったので、胸をとどろかしてあみを上げた。少しあみが届きかねたが、ようよう首尾よくとれたので、こしにつけていた虫かごにいそいで入れて、③つつみきれない喜びをいだいて森を出た。

三の丸の石段の下までくると、向こうから美しいこうもりがさをさした女が子どもの手をひいて木陰伝い伝い来るのに出あった。町の良い家の妻女であったろう。かさをもった手に薬びんを下げて、片手は子どもの手を引いて来る。子どもは、大きな新しいむぎわらぼうしのひもをかわいいあごにかけて、真白な洋服のようなものを着ていた。自分のさげていた虫かごを見つけると、母親の手を離れてのぞきに来たが、眼をまるくして母親の方へかけて行って、そでをぐいぐいひっぱっていると思うと、また、虫かごをのぞきに来た。母親は、早くおいでよと呼ぶけれども、なかなか自分のそばを離れない。ⓒⓒ強いて連れていこうとすると、道のまん中にしゃがんでしまって、とうとう泣きだした。母親は、ⓓⓓ途方にくれながら叱っている。自分は、Ⓒ⑤そのとき、虫かごのふたを開いて、かぶとむしを引きだし、道ばたの相撲取草を一本抜いて、虫の角にしっかりしばった。そして、さあ、といって、子どもにわたした。子どもは泣きやんで、きまりの悪いようにうれしい顔をする。母親は、おどろいて、子どもを叱りながらも礼をいった。

自分は、なんだかきまりが悪くなったから、だまって、からになった虫かごを打ちふりながらかけだしたが、うれしいような、惜しいような、ⓔⓔかつて覚えのない心持ちがした。

その後、たびたび、同じコクサの木の下へも行ったが、あのときのようなみごとなかぶとむしは、もう見つからなかった。あのときの母子にも、再びあわなかった。

（寺田寅彦『こくさの木』）

注1　かや＝蚊を防ぐために、寝室につり下げる目の細かいあみのおおい。

注2　臨んだ＝面した。

注3　みぎわ＝みずぎわ。

注4　くち＝くさり、形がくずれて。

注5　臭気＝いやなにおい。くさみ。

問一 ═線ⓐ～ⓔのことばの意味を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア むりに。　**イ** 今までに経験したことがない。
ウ たいへん多い。　**エ** わくわくする。
オ どうしていいかわからなくなる。

ⓐ［　　］　ⓑ［　　］　ⓒ［　　］　ⓓ［　　］　ⓔ［　　］

問二 〰線Ⓐ～Ⓒの指示語の指している内容を書きなさい。

Ⓐ［　　］　Ⓑ［　　］　Ⓒ［　　］

問三 ──線①「毎日のように虫とりに出かけた」のは、いつごろのことですか。

［　　］

問四 ──線②「コクサの木」の花は、どんな様子で咲（さ）き、どんなところに散っていましたか。

［　　］

問五 かぶとむしは、(1)何という木の、(2)どんなところにいましたか。また、(3)どんなかぶとむしでしたか。

(1)［　　］　(2)［　　］　(3)［　　］

問六 ──線③「つつみきれない喜びをいだいて森を出た」理由を書きなさい。

［　　］

問七 筆者が子どもにかぶとむしをあげる気持ちになった理由として適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 子どもがみごとなかぶとむしにひかれ、離れないから。
イ 子どもが自分のそばを離れないでじゃまだから。
ウ 子どもにかぶとむしをじまんしたかったから。
エ 自分の小さいころを思い出したから。

［　　］

問八 かぶとむしを子どもにあげた筆者は、どんな気持ちになりましたか。文中から二十五字以上三十字以内で書きぬきなさい。

第5回 詩・短歌・俳句

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

信濃　　室生犀星

雪といふものは
①物語めいてふり
こなになりわたになり
哀しいみぞれになり
たえだえにふり
また向うも見えぬほどにふる
②村の日ぐれは
ともしびを数へてゐるうちに深まる
雪は野山を蔽ひ
野山も見えずなる
こなになりわたになり
哀しいみぞれになり
しんみりとふりつひに歇んでしまふ。

問一 この詩の種類として適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 定型詩　**イ** 自由詩　**ウ** 散文詩

［　　］

問二 ――線①「物語めいてふり」とは、雪のどのような様子をたとえていますか。適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 雪がさまざまな形でふり、また、そのふり方も多くふったり少なくふったりする様子。
イ 冬のことを書いた物語のように、雪がたえまなくふり続ける様子。
ウ 待ち望んでいた雪がふり、期待していたようにいつまでもふり続く様子。
エ 冬になると、外に出ることもできずに家で本を読むしかないほど、雪がふり続く様子。

［　　］

問三 ――線②「村の日ぐれは……深まる」は、どんな様子を表していますか。適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 村の家の数を数えているうちに、いつの間にか夕方になってしまった様子。
イ 夜になってゆくので、明かりをともす家が一けん、一けんと増えてゆく様子。
ウ 夜になって村中の家がいっせいに明かりをつけたので、村の中が明るくなった様子。
エ 暗い夜空から降る雪が、家の明かりを反射してともしびのように見える様子。

［　　］

問四 この詩に表れている作者の気持ちの説明として適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア この冬初めてふった雪に、躍動感を覚え、喜びを感じている。
イ 静かな風景の中にしんしんと聞こえる雪のふる音に、冬のき

びしさを感じている。

ウ　自分のほかにはほとんど人影も見えない静寂の中で、あたかも雪を生きもののように感じている。

エ　一日中ぼんやりと外の景色を見ているうちに、自分が雪になったような錯覚を起こしている。

［　　］

2　次の鑑賞文にあてはまる短歌をあとから選び、記号で答えなさい。

①　母に対する作者の思いが伝わってくる歌である。この感動の中にはつらい悲しみがふくまれている。母の今までの苦労を思うと、これからは幸せにしてあげなければならないと思う作者の思いが伝わってくる。

②　死ぬかもしれないという不安がある。残された者のことを考えると、この苦難をなんとか乗りこえなければならないと思う、父親のけんめいな姿がこの歌の中にある。

ア　霜やけの小さき手して蜜柑むくわが子しのばゆ風の寒きに　落合直文

イ　たはむれに母を背負ひて　そのあまり軽きに泣きて　三歩あゆまず　石川啄木

ウ　隣室に書よむ子らの声きけば心に沁みて生きたかりけり　島木赤彦

エ　死に近き母に添寝のしんしんと遠田のかはづ天にきこゆる　斎藤茂吉

①［　　］　②［　　］

3　次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

①　（A）に病んで夢は枯野をかけめぐる　松尾芭蕉

②　をりとりてはらりとおもき（B）かな　飯田蛇笏

③　（C）をこすうれしさよ手に草履　与謝蕪村

④　梅一輪一輪ほどの（D）　服部嵐雪

問一　①～④の俳句の（　　）A～Dにあてはまることばとして適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　夏川　**イ**　菜の花　**ウ**　あたたかさ

エ　すすき　**オ**　つめたさ　**カ**　旅

キ　名月

A［　　］　B［　　］　C［　　］　D［　　］

問二　①・④の俳句の季語を書きぬき、その季節をそれぞれ漢字一字で書きなさい。

①　季語［　　］　季節［　　］

④　季語［　　］　季節［　　］

問三　次の鑑賞文にあてはまる俳句を①～④から選び、番号で答えなさい。

○ほてった足にふれる水のここちよさが伝わってくる句である。

［　　］

補充講座　漢字・言語・文法

1〈漢字の読み書き〉次の――線部の漢字の読みをひらがなで、かたかなを漢字で書きなさい。

① 電車が通過する。
② 得体の知れない人。
③ 正しく判断する。
④ ズボンが破れる。
⑤ ひなん訓練を行う。
⑥ 自然を保護する。
⑦ エネルギーを消費する。
⑧ 相手の気持ちをサッする。
⑨ 新聞にトウショする。
⑩ 試験にゴウカクした。
⑪ 川がイキオいよく流れる。
⑫ 失敗したゲンインを考える。
⑬ かぜがナオる。
⑭ 日本のレキシを学ぶ。

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨　⑩　⑪　⑫　⑬　⑭

2〈部首〉次の部首の部首名をAから、その意味をBから選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 亻　② 礻　③ 忄　④ 氵

A　ア にすい　イ にんべん　ウ ころもへん　エ りっしんべん

B　ア 心に関係がある。　イ 人に関係がある。　ウ 寒さに関係がある。　エ 着る物に関係がある。

①　A　B
②　A　B
③　A　B
④　A　B

3〈部首〉次の漢字の部首名をひらがなで書きなさい。

① 社　② 庭　③ 延　④ 益
⑤ 都　⑥ 開　⑦ 屋　⑧ 葉

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧

4 〈総画数〉 次の漢字の総画数を漢数字で答えなさい。

① 局　② 逆　③ 階　④ 興

①□　②□　③□　④□

5 〈熟語の組み立て〉 次の熟語の組み立てにあたるものをあとのア～コから二つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 下の字が上の字の動作の目的や対象になっている。
② 上の字が下の字の意味を修飾している。
③ 似た意味の漢字が重なっている。
④ 反対や対の意味の漢字が重なっている。
⑤ 下に意味をそえたり強めたりする字がついている。

ア 過去　イ 強化　ウ 駅前　エ 乗車
オ 増減　カ 寒冷　キ 売買　ク 整然
ケ 国境　コ 読書

①□・□　②□・□　③□・□　④□・□　⑤□・□

6 〈三字熟語〉 次の□に「不・未・無」のいずれかを入れて、三字の熟語を作りなさい。

① □関心　② □満足　③ □解決

7 〈同音異義語〉 次の――線部のかたかなを漢字で書きなさい。

① デントウ芸能を習う。
② げん関のデントウをつける。
③ テストのカイトウを書く。
④ アンケートにカイトウする。
⑤ キカイ化の進んだ工場。
⑥ 工場を見学するキカイがあった。
⑦ 交通安全シュウカン。
⑧ 早起きのシュウカンをつける。

①□　②□　③□　④□　⑤□　⑥□　⑦□　⑧□

8 〈同訓異字〉 次の――線部のかたかなを漢字で書きなさい。

① 友達の話をキく。
② よくキく薬を飲む。
③ 学力の向上にツトめる。
④ 学芸会で主役をツトめる。
⑤ ほしかった本をカう。
⑥ 庭で犬をカう。

①□　②□　③□　④□　⑤□　⑥□

9 〈類義語〉 次のことばの類義語をあとから選び、漢字で書きなさい。

① 値段　② 公平　③ 特有
④ 永遠　⑤ 手段　⑥ 起源

〔ほうほう　かかく　えいきゅう〕
〔ゆらい　こゆう　びょうどう〕

①　②　③　④　⑤　⑥

10 〈対義語〉 次のことばの対義語を漢字と送りがなで書きなさい。

① 得る　② 閉める

①　②

11 〈対義語〉 次のことばの対義語をあとから選び、漢字で書きなさい。

① 直接　② 収入　③ 権利
④ 勝利　⑤ 許可　⑥ 自然

〔きんし　かんせつ　じんこう〕
〔はいぼく　ぎむ　ししゅつ〕

①　②　③　④　⑤　⑥

12 〈慣用句〉 次の慣用句の意味をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 腹を割る　② へそを曲げる
③ かぶとをぬぐ　④ 筆が立つ

ア きげんを悪くする。
イ 文章を書くのがうまい。
ウ 相手にこうさんする。
エ 本心をありのままに話す。

①　②　③　④

13 〈慣用句〉 次の□に体の一部を表す漢字一字を入れて、それぞれ慣用句を完成させなさい。

①　にあせをにぎる
②　を引っぱる
③　から火が出る
④　であしらう

14 〈ことわざ〉 次のことわざの意味をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 三つ子のたましい百まで　② 灯台もと暗し
③ ぬれ手であわ　④ 花よりだんご

ア 身近なことは、かえってよくわからないということ。
イ 幼いころの性質は年を取っても変わらないということ。
ウ 見かけよりも、実際の利益を重んじること。
エ 努力しないで大もうけをすること。

①　②　③　④

15 **〈主語・述語〉** 次の文の主語と述語にあたることばを選び、それぞれ記号で答えなさい。

① ぼくたちは（ア） ピアノに（イ） 合わせて（ウ） 歌を（エ） 歌った（オ）。

② 森田くんこそ（ア） クラスの（イ） 代表に（ウ） ふさわしい（エ）。

③ 昨日（ア） わたしは（イ） 兄から（ウ） 借りた（エ） 本を（オ） 読んだ（カ）。

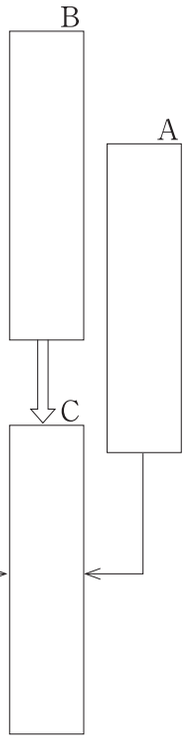
① 主語 ［　　］ 述語 ［　　］

② 主語 ［　　］ 述語 ［　　］

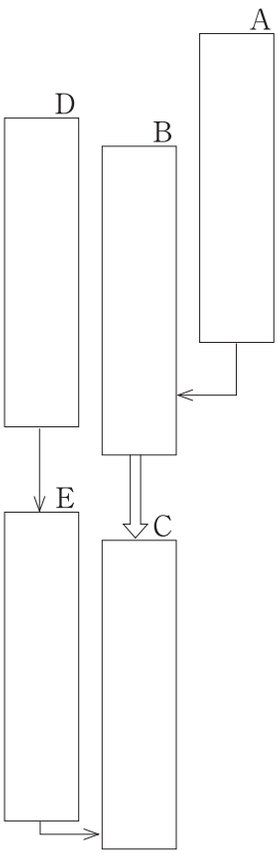
③ 主語 ［　　］ 述語 ［　　］

16 **〈文の組み立て〉** 次の文はどのような組み立てになっていますか。図中の□にあてはまることばを書き入れなさい。（⇩は主語・述語の関係を、→は修飾（しゅうしょく）・被修飾（ひ）の関係を示します。）

① いきなり　妹が　わあっと　泣き出した。



② ぼくの　学校は　海の　近くに　あります。



17 **〈品詞（ひんし）〉** 次の①～⑤は、それぞれ同じ品詞の単語を集めたものです。品詞名をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 白い　かわいい　新しい　おもしろい

② さて　ところが　だから　それから

③ 時計　研究　気持ち　日本

④ 投げる　行く　待つ　歌う

⑤ が　まで　から　だけ

ア 名詞　イ 動詞　ウ 形容詞

エ 接続詞　オ 助詞

① ［　　］

② ［　　］

③ ［　　］

④ ［　　］

⑤ ［　　］

18 **〈複合語〉** 次の二語を合わせたⓐ複合語とⓑその品詞名を書きなさい。

① 飛ぶ（動詞）　回る（動詞）

② 重い（形容詞）　苦しい（形容詞）

③ 笑う（動詞）　声（名詞）

④ 力（名詞）　強い（形容詞）

① ⓐ［　　］ ⓑ［　　］

② ⓐ［　　］ ⓑ［　　］

③ ⓐ［　　］ ⓑ［　　］

④ ⓐ［　　］ ⓑ［　　］